

聖母マリアの百合

『受胎告知』

レオナルド・ダ・ヴィンチ



- Annunciazione -

Leonardo da Vinci

Olio su tavola (1472 c.) Galleria degli Uffizi

純白の清らかな百合の花。

この花が、聖母マリアの象徴であることをご存知ですか。

『新約聖書』の中に、天使ガブリエルがマリアの前に現れて、彼女がキリストを身籠ることを告げる場面があります。『受胎告知』はそのシーンをモチーフにしたもので、昔から多くの画家が作品を描いてきました。

このレオナルドの絵画もそのひとつ。二十歳頃の作品で二メートル以上もある大作です。天使が持つ白い百合は聖母の純潔を表し、処女懐胎の象徴として表現されるために雄しべは描かれないことが多いのが『受胎告知』です。ところが自然を愛し、自然に忠実であることを信念とするレオナルドは、百合に雄しべを描いています。

非常に鋭い観察眼を持っていたレオナルドは、植物のデッサンにも熱心でした。それは作品の準備や下絵と言うよりは、植物学的な興味が大きかったようです。

枝の曲がり方、葉のつき方、光が当たった時の影の出方。それはもう夢中になって研究し、またその正確さは作品を作るための彼の信念でもありました。

「万能の天才」と呼ばれるレオナルドですが、科学・芸術・解剖学などの幅広い考察は人一倍研究熱心だった彼の好奇心や探究心の賜物たまものなのでしょう。

ところで彼の名前レオナルド・ダ・ヴィンチというのは「ヴィンチ村のレオナルド」という意味です。「大森の太郎くん」と同じような意味ですね。

ある村のある青年が、生涯をかけて自分の好奇心を追い続けたことが、こんなにも人類に影響を及ぼすなんて、素敵だと思いませんか。

(『受胎告知』 レオナルド・ダ・ヴィンチ 一四七二年頃 ファイレンツェ ウフィツィ美術館)

花物語

比田井宗玉

五

